

2024年11月18日

業界最長の歴史を誇る「ストアフロントコンクール」 第55回グランプリを「AICAFE VILLAGE PROJECT」が受賞

三和ホールディングス株式会社（本社：東京都新宿区／社長：高山靖司）の連結子会社である昭和フロント株式会社（本社：東京都千代田区／社長：笹澤英夫）は、「第55回ストアフロントコンクール」受賞作品を発表しましたのでお知らせ致します。



グランプリ受賞「AICAFE VILLAGE PROJECT」

応募総数は過去最多となる2,307件を数え、グランプリには「AICAFE VILLAGE PROJECT」が選ばれました。部門ごとの賞につきましても甲乙つけがたい作品が出そろい、グランプリ・金・銀・銅賞合わせて10作品の受賞が決定致しました。

コンクール総評

審査委員長/八木 幸二氏

今回も沢山の応募作があり、フロント材が建築の魅力的な外観と、インテリアを作り出しています。窓やドアに加え、汎用材を使用したガラリやルーバーを組み合わせて機能を充実したり、建築の形態や色彩、鏡、照明、ソーラーパネルなどと調和させたり、外部の緑や遠景と連携を図っている作品があり、フロント材の使い方が多角的になっていると感じます。

一般建築部門の金賞では、水圧転写(TEN-写)による木目調のルーバーの間にソーラーパネルを使い、リニューアル部門の銀賞では、小さなコンビニをランドリーに変えるのに、全面開口を木目調のフレームでまとめ、建築の長期活用を促すSDGs時代を実感します。これなら、雨晒しによる木材の腐食の心配もなく安心です。



グランプリ受賞

「AICAFE VILLAGE PROJECT」

(審査委員長コメント)

畑と森の間、いわゆる里山に建つ少し傾いたファサードのこの建物の周りには、ドームテント、キャンピングトレーラーなどさまざまな宿泊施設や露天風呂、キャンプファイアーなどが散在しています。1階には、洗面、トイレ、浴室、など閉鎖的空間があり、森側の外には露天風呂があり、畑側のテラスから入り2階に上がると視野がぐるりと広がるカフェ・レストランで、キッチンスペースの上が空いているので森側も見えます。傾いたフロントからは遠くの間と畑を眺めることが出来、畑の向こうにもドームテントがあるので、まさにアグリツーリズムの中心です。黒いスリムなフロント材が、柱から離れて傾いていますので、2階がガラスの宝石箱のようです。

審査委員長/八木 幸二氏



第1部 店舗建築部門 金賞受賞
「トヨタカローラ福島株式会社 西中央店」

(審査委員コメント)

このショールームはシンプルな三要素で構成されているのが印象的だ。フロント壁のレリーフデザイン、その壁から一直線に伸ばしたサインゲート、そしてウインドガラス面はアソートサッシの不規則性が小気味よいリズム感を道行く人々に与えている。これらの要素が一体化して全体が力強いデザインとなっている。

審査委員/往蔵 稲史仁氏



第2部 一般建築部門 金賞受賞
「秦野市農業協同組合 西支所」

(審査委員コメント)

木目ルーバーの間に180枚の太陽光パネルを設置することで環境に配慮した設計が特徴です。木目のTEN-写ルーバーはシャープで、視点により異なる表情を見せ、木製ではなしえない耐久性とデザイン性が強調されています。夜景では2階のルーバーの光と1階の店内照明が美しいコントラストを作り出しており、視覚的にも優れた効果を発揮しています。

審査委員/池貝 知子氏



第3部 リニューアル部門 金賞受賞

「くるふ福井駅」

(審査委員長コメント)

温かみのある木質のデザインと黒くスリムなフロント材で構成されている。サイン計画、サイネージ、照明計画とともに再編されたものであるが、多量に人が行き交う空間の安全性を担保する大きなガラス面によって、店舗や飲食の賑わいが駅コンコースや側道側にもたらされ、新たな観光スポットとして高架駅下のスペースの活性化が図られている。

審査委員/加茂 紀和子氏